

● 北京外国语学院

沈茅一

主编

高等教育出版社

日本語

6



日 本 语

(6)

沈茅一 (主编)

鲍 显 阳



高等教育出版社

(京)112号

内 容 提 要

本书是《日本語》系列教材的第6册。本册由10课构成，体例与前几册基本相同。课文全部选自原文，体裁多样，内容丰富，实用性强。本册着重提高阅读、理解能力和翻译、表达能力。练习形式多样，针对性强。为便于自学还安排了自我测试题。书后附课文参考译文、练习及自我测试题参考答案以及1—6册语法、句型、词和词组的总索引。

本书可供具有中级日语水平的学生和自学人员使用。

责任编辑 祝大鸣

日 本 语

(6)

沈茅一 (主编)

鲍显阳

朱春跃

合 编

*

高等教育出版社出版

新华书店总店科技发行所发行

河北省香河县印刷厂印装

*

开本850×1168 1/32 印张13 字数330 000

1997 年4月第1版 1997 年4月第1次印刷

印数0 001—810

ISBN 7-04-004036-0/H·444

定价12.50元

前 言

本书是应成年人自学日语的需要而编写的。全书共分六册，一、二册为初级教程，主要学习基础语音、语法、词汇等，课文采用会话体，在内容上主要是日常生活的场面，力求兼顾语法体系和交际需要，每课附有简单的日常生活用语。三、四册为中级教程，主要对一、二册所学的语法、词汇等进行巩固、补充和提高，并使之系统化。这一阶段的课文编写，选用了各类生活、知识性的浅显易懂的文章，逐步增加有关日本情况的内容，并根据需要，对选用的文章部分地进行了删减、改写。五、六册为高级教程，侧重于提高阅读、理解及翻译、表达的能力，课文全部选自原文。包括语言、文化、科技、自然科学、人物介绍、游记以及小说、随笔、评论、报导等各种体裁的文章。考虑到自学的困难，对原文中过于生僻的词语或较抽象的表达进行了适当的删减和改写。全部六册学完之后，可达到大学本科生从头学起班三年级上学期的水平。

为了帮助学习者掌握所学知识，本书尽可能详细地进行了注释，并针对难点、重点安排了“语法和句型”，第三册开始增加“词和词组”，以便进行系统的语法、句型、词汇的学习。

每一课都安排有形式多样的练习，并在每一阶段安排了“自我测试题”，以便读者自己复习、检查掌握的情况。（在一、二册中还编有复习本阶段语法和句型的复习课）。

本书后附有课文参考译文、练习及自我测试题参考答案、语法句型索引以及1—6册语法、句型、词和词组的总索引，为读者使用全套书进行自学提供了更多的方便。

从第三册起，为扩大词汇量和知识面，提高阅读理解的能力

和速度，每课都安排了一至二篇难度略低于课文的“课外阅读”，其中的难点以“课外阅读注释”的形式予以解答。此外，三、四册每课还安排了有关日本和日本语的“小知识”。

本书正式出版前曾在北京外国语学院函授班、夜大学及公外教学中试用多年，并在此基础上经过反复讨论、修改而成。它除了适用于初学者外，也适用于已有一定日语基础的自学者及日语专业的学生、第二外语学习者；还可用作日语教师备课的参考。

本书曾数度易稿，书中的课文注释、语法、句型、词汇的选择分类、用法解释及对比归纳等集中了编者多年来的教学经验，吸收了当前国内外日语界的一部分最新研究成果，同时，还得到了我院几任日本文教专家的帮助和指导。但限于编者的水平，加之编写自学教材是一次新的尝试，因此书中难免有疏漏、不妥之处，诚恳希望广大读者和同行提出宝贵意见。

本书由北京外国语学院副教授沈茅一主编，参加编写的还有鲍显阳、朱春跃。同时也得到了我院文教专家岩上治、远藤明生先生的帮助，在此谨表诚挚的感谢。

编 者

1991年11月

目 录

第1课 どうも	1
生词	4
课文注释	9
语法和句型	12
一、副助词 さえ、すら	12
二、～を～とする	15
三、～ば～ほど	15
四、なぜなら～からだ	16
五、～に富む	16
词和词组	17
一、きく	17
二、おそらく	17
三、せいぜい	18
四、だいたい	18
练 习	19
课外阅读 おしゃべり	23
课外阅读注释	29
第2课 ことばの行き違い	32
生词	36
课文注释	42
语法和句型	44
一、～たつもり	44
二、～による～	44
三、接尾词 そのもの	45
四、～うる	46
五、终助词 とも	46

词和词组.....	47
一、いちおう	47
二、わざと	47
三、ばかに	47
四、より	48
练习	48
课外阅读 慣用句のいろいろ	52
课外阅读注释	55
第3课 情報時代と情報公害	57
生词	61
课文注释	67
语法和句型	69
一、～ざるをえない	69
二、～としても	69
三、～にしても	70
四、接尾词 がたい	70
词和词组.....	71
一、余裕	71
二、まるで	72
三、ろくすっぽ(ろくに)	73
四、ものを言う	73
练习	74
课外阅读一 癖ある馬に能あり	78
课外阅读一注释	80
课外阅读二 記憶	80
课外阅读二注释	83
第4课 幸福	84
生词	89
课文注释.....	96

语法和句型	99
一、接尾词 ごし	99
二、～が早いか	99
三、接尾词 がけ	100
四、接尾词 きる	100
五、いくら～ても	101
六、～とたんに	101
七、～あげく	102
八、接尾词 げ	102
词和词组	103
一、おまけに	103
二、急に	103
三、ふと	103
练习	104
课外阅读 キュリー夫人	107
课外阅读注释	116
第5课 隔たり	118
生词	121
课文注释	126
语法和句型	128
一、并列助词 だの、の、なり	128
二、接続助词 つつ	129
三、副助词 だけ	130
词和词组	132
一、いずれにせよ (いずれにしろ)	132
二、届く和届ける	133
三、いきなり	134
四、なじむ	135
练习	135
课外阅读 最後の授業	139

课外阅读注释	146
自我测试题 (一)	148
第 6 课 ゴミ戦争	150
過保護	151
生词	152
课文注释	156
语法和句型	158
一、使役被动句	158
二、接续助词 と、ば、たら、なら	159
三、接尾词 目	164
四、～ときたら	164
词和词组	165
まわす和まわる	165
练习	168
课外阅读一 環境と人間	172
课外阅读一注释	174
课外阅读二 もらいっ子	175
课外阅读二注释	179
第 7 课 緑と青の自然	181
生词	186
课文注释	191
语法和句型	194
一、いかに～か	194
二、终助词 か	195
三、副助词 など	196
四、～とよい (いい)	198
五、～とは夢にも思わなかった	198
词和词组	199
一、わたる	199

二、いうまでもない	200
练习	200
课外阅读 森林の働き	203
课外阅读注释	207
第8课 かけがえのない地球と人間	209
生词	213
课文注释	217
语法和句型	220
一、补助动词 おる	220
二、タルト 形容动词	220
三、～以外の何ものでもない	221
四、日语的句子	222
词和词组	228
一、どうにもならない	228
二、あっという間	229
三、まして	229
练习	230
课外阅读一「あ」	234
课外阅读一注释	236
课外阅读二 夜の体操	238
课外阅读二注释	240
第9课 雪の中の凍った本	242
生词	246
课文注释	251
语法和句型	254
一、～かようだ	254
二、～に追われる	255
三、接尾词 めく	255
四、助动词 まい	255

五、日语的接尾词	256
词和词组	264
ばかにする	264
练习	264
课外阅读一 風の歌を聴け	267
课外阅读一注释	270
课外阅读二 北国の春	271
课外阅读二注释	273
第10课 衣食と中国、西洋文化について	275
失われた歳月をとりもどすために	277
生词	280
课文注释	283
语法和句型	287
一、一方では～, 他方では～	287
二、～てはならない	288
三、～にすぎない	289
四、～からといって	289
五、終助詞 かしら	290
六、～でように (～だろうに)	291
七、～では (或ては) いられない	291
练习	292
课外阅读一「いたわる」文化	295
课外阅读一注释	293
课外阅读二「語らぬ」文化	299
课外阅读二注释	301
自我测试题(二)	303
【附录一】课文参考译文、练习及测试题参考答案	306
【附录二】语法句型索引	365
【附录三】第1册～第6册语法、词和词组、句型总索引	369

第1課 どうも

日本に^{がいじん}来た外人に、これを知っているとたいへん^{べんり}便利だからぜひ覚えておくといいという日本語を一つだけ教えてほしい、などと言われたら、みなさんはどうするか。

「コンニチハ」ではない。「サヨウナラ」でもない。「アリガトウ」でも「スママセン」でもない。「ドウモ、ドウモ」——これである。

「どうも」——このことばさえ知っておれば、さきに^あ挙げた四つのことばも、すべてこれで^{だいよう}代用がきく。友人に道で会ったら「やあ、どうも」と言えればいいし、別れるときは「それでは、どうも」と言っておけばよろしい。応用^{おうよう}範囲^{はんい}は、きわめて広い。婚礼^{こんれい}のとき、あるいは葬儀^{そうぎ}の場合に、堅苦^{かたくる}しいあいさつを^{ながなが}長々と述べる必要はなく、^{ほんじつ}「本日はどうも」といって頭を下げるだけで意味が通じる。日常^{にちじよう}の社交用語^{しやかうようご}として、これほど便利^{べんり}重宝^{ちゆうほう}なものはない。

「それでは、いったい、どうもとはどういう意味内容を持ったことばなのですか」外人にあらためてそう尋ねられた日本人が、

「さあ、それはどうも……」

といって頭を^{わらいばなし}かいた。これは笑話——。

「大言海^{だいげんかい}」によると、「どうも」には、「どうしても」「いかにすれども」「はなはだ。まったく」という三つの意味があると記されている。「どうも見えぬ」「どうも仕方がない」「どうも^{おどろ}驚いた」等々、要するに、^{てあ}どうしようもない、なすすべを知らぬ、まったくお手上げだ、ということである。高価^{こうか}な贈り^{おく}

もの物を受けたときなどに発する「これは、どうも」ということば、親しい友人の告別式に赴いたときなどに述べる「なんとも、どうも」ということば、いずれも感きわまって、自分の気持をどう表現していいのかわからない、ということだ。

それは、自分の思っていることを言いあらわすのに、ことばというものがいかに不備で不適切であるかということの自己告白であり、そこに日本人の言語観を見ることができる。思想や意見はことばによって必ず的確に表現でき、また表現すべきものとする西洋の合理主義的コミュニケーション感覚とは、まったく正反対のもので、以心伝心とか不立文字をよしとして、つねとする日本人の精神構造と深いかかわりあいがある。いわば、超言語的思想表現である。

このように、「どうも」と言えば、どうにも言いあらわせない、ということが原義でありながら、今日われわれは「どうも」でなんでも表現している。「どうもありがとう」「どうもすみません」「どうも困った」などの、「どうも……」に続くあとのことばを省いて使っているのだ。電話のかけ方を例にとろう。

「もしもし、こちらは加藤ですが。どうも、どうも」

あいさつは万事これでことたりる。「この頃はすこし暑うございますね」とか「このあいだは失礼をいたしまして」など言わなくてもすむ。

この頃は、マスコミュニケーションをマス・コミというふう
に、フルネームを略語化することが多い。しかし、「どうも」
の場合は表現の簡略化であって、マス・コミというときのよ
うにことばの簡略化とは違う。略語はそれ自身一つの意味しか
持たぬ。「どうも」は一語にして多義的な意味を持つ、多義性
を活かすことで簡略化に成功しているわけである。

日常のあいさつことばとして「どうも」をよく使いはじめたのは、おそらくジャーナリズム関係の職業の人たちであろう。彼らの仕事の性質上、儀礼的あいさつはせいぜい簡略にして、敏速な事務処理をはかる必要がある。そこで簡潔なあいさつことばとして「どうも」が登場する。そして戦後、マス・コミ産業の拡大化にともない、「どうも、どうも」も一般に普及し、大衆化したのであろう。

だいたい、東方の君子国である日本には、あいさつことば一つにも、めんどろなしきたりやきまりのようなものがある。

「このたびは不思議な御縁で」といえば婚礼のときの、「だんだんとおさみしゅうございます」といえば初七日のときの、それぞれ慣用あいさつことばである。これらをいちいち覚えて使いこなすのはたいへんだ。それに、こうした慣用句はいわば紋切型になって、白々しい感じを相手に与えることにもなる。「どうも」——この一語のほうにどれほど情感がこもることか。

「どうも」はあとに続くことばをみな言わなくても、それを使う時と場合、あるいは抑揚のつけ方で、何を言おうとしているかがわかる。自分の置かれたさまざまな状況の如何に応じ、ひろく無限に応用がきく。「どうも」というのは、それだけとり出してみれば、意味論的にたしかにアイマイなことばだ。しかし、アイマイだからいかん、という理屈はかならずしも成り立たない。実際の状況では、「どうも」のあとに続く意味は、わざわざことばに出さなくても、ちゃんとわかるようになっているのだ。言わないでもわかっていることをわざわざ言うのは、意味の明晰化ではない。それはムダというものだ。それに日常言語というものは、ある程度のアイマイさを潤滑油にして動いている。「どうも」はそういう潤滑油として働いてい

る。つまり「どうも」は、^{たげんてき}多元的状況を^{ちゆうしやうてき}抽象的に処理すること
 とができるわけだ。^{にんげんかんけい}人間関係が^{ふくざ}複雑になればなるほど、ますます
^{こうよう}効用が^{はつき}発揮されるのである。

こう考えてみると、「どうも」ということばには、ものごとの
^{はんたん}判断を^{ちゆうし}中止し、^{だんてい}断定することを^{かいひ}回避するという機能^{きのう}をもって
 いるようだ。「どうもわからん」といえば、あれもこれもいろ
 いろ考えてはみたけれど、どうにもわからんということで、判
 断中止・断定回避の態度を示す。「どうも」がもつ多義性は、こ
 うした判断中止・断定回避性から出てくる。そして、日常の社
 交用語としての儀礼性も、ここから生まれたものといってよ
 い。なぜなら、儀礼や社交では、思想の発表とは違って、言語
 表現が^{めいかく}明確であることを必要としないのだから。

「どうも」は日常よく使われている^{しやみんてき}庶民的なことばでありな
 がら、その意味内容は非常に^とニュアンスに^{ほんやく}富み、外国語に^{ほんやく}翻訳
 しにくい。^{せいかく}正確に^{つた}意味内容を伝えることはむしろ^{ふかのう}不可能とさえ
 いってもよい。

(选自 林屋辰三郎等著「日本人の知恵」,有删节)

【生词】

きく〔利く〕⑩	(自五)	有效,生效,见效, 起作用,有影响
葬儀〔そうぎ〕①	(名)	葬礼
堅苦しい〔かたくるしい〕⑤	(形)	拘谨,拘泥形式的
長々と〔ながながと〕③	(副)	非常长,冗长,长期
述べる〔のべる〕②	(他下一)	叙述,说明,发表
頭を下げる〔あたまをさげる〕③—②	(词组)	鞠躬,钦佩,认输,

頭をかく〔あたまをかく〕③—① (词组)	屈服 挠脑袋 (表示害羞和难以确定)
大言海〔だいげんかい〕③ (名)	大言海 (书名)
いかにすれど② (词组)	无论怎样做也……
はなはだ〔甚だ〕④ (副)	甚, 非常, 很, 极其
記す〔しるす〕④ (他五)	书写, 记录, 记载
要するに〔ようするに〕③ (副)	总之, 简而言之, 总而言之
なす〔為す〕① (他五) (文语) 为, 做	
お手上げ〔おてあげ〕④ (名)	服输, 毫无办法, 束手无策
高価〔こうか〕① (名・形动)	高价, 贵
贈り物〔おくりもの〕④ (名)	礼品, 礼物
告別式〔こくべつしき〕④ (名)	告别仪式, 辞灵仪式
赴く〔おもむく〕③ (自五)	赴, 往, 趋向
きわまる〔極まる〕③ (自五)	穷尽, 达到极端, 困窘
いかに〔如何に〕② (副)	如何, 怎样
不備〔ふび〕① (名, 形动)	不完备, 不周全, 不完整, 不尽欲言
不適切〔ふてきせつ〕② (名・形动)	不适合, 不适当
自己〔じこ〕① (名)	自己, 自我
告白〔こくはく〕④ (名・他サ)	坦白, 自白
言語観〔げんごかん〕③ (名)	语言观, 语言观念
的確〔てきかく, てっかく〕④ (形动)	正确, 准确, 恰当

合理主義〔ごうりしゅぎ〕④	(名)	合理主义, 合理的 主张
コミュニケーション④	(名)	思想交流, 传达, 报道, 通信
以心伝心〔いしんでんしん〕①—①	(名)	以心传心, 心心相 印
不立文字〔ふりゅうもんじ〕④	(名)	不立文字禅, 心领 神会
かわりあい〔拘わりあい〕⑤	(名)	(有) 密切关联
超言語的〔ちょうげんごてき〕①	(形动)	超语言的
原義〔げんぎ〕①	(名)	原义, 原意
かけ方〔かけかた〕①	(名)	打电话的方式
ことたりる〔事足りる〕①	(自上一)	足够, 够用
マスコミ(コミュニケーション)①③	(名)	宣传机构, 大众传 播媒介
フルネーム③	(名)	全名, 全称
一語〔いちご〕①	(名・自サ)	一个词
活かす〔いかす〕②	(他五)	有效地利用, 活用, 灵活, 使之复活
ジャーナリズム④	(名)	宣传报道机关(事 业)
性質上〔せいしつじょう〕①	(名)	在性质上
儀礼的〔ぎれいてき〕①	(形动)	礼节性的
せいぜい①	(副)	尽量, 尽最大努力, 充其量, 最多不过
簡略〔かんりゃく〕①	(名・形动)	简略, 简单, 简洁